



わがまち 維新のまち

今から150年前の1865年に、薩摩藩はイギリスに15人の留学生と3人の使節、1人の通訳を派遣しましたが、その人たちを何というのでしょうか。

<解説>

答えは **薩摩藩英国留学生**です。

この派遣は、五代友厚の提案が採用されたものです。15人の留学生は、1864年に薩摩藩が開設した洋学校「開成所」の学生を主体に選抜されました。

彼らは1865年2月15日に、鹿児島城下の新納久脩の屋敷に集合して、羽島(いちき串木野市)へ向かいました。この地で、イギリス商人のグラバーが手配した船が来るまでの約2カ月間滞在后、イギリスに向けて出発しました。当時の日本では海外へ行くことが禁止されており、二度と故郷の地を踏めないかもしれないという覚悟の船出でした。

【観光プロモーション課 216-1344】



小松 帯刀



若き薩摩の群像
(鹿児島中央駅前
東口広場)

作者の有島生馬は、留学先のイタリア、フランスで見聞した20世紀ヨーロッパ美術の動向を日本へ紹介し、二科会を創立するなど近代洋画史に大きな足跡を残しました。有島は1964年、81歳の夏に3度目の渡仏を叶え、かつての学び舎や思い出の街を巡りました。この作品は滞在中雇ったモデルをモチーフに、帰国後描かれたものです。対象の本質や内面を見つめる画家の深いまなざしとともに、ルノワールの女性像を思わせる少女の健康的な美しさが表れて



バラ模様の背景に鮮やかな青のドレスをまとった少女。1960年代パリの空気を感ぜさせる、とても華やかな作品です。

③有島生馬「巴里娘」

市立美術館の逸品

学芸員オススメ!

生馬の父は薩摩藩士。作家の有島武郎、里見弴は生馬の兄弟です!



市立美術館
稲葉 学芸員

います。

ところで、有島は若き日の留学中にルノワールを訪ねた経験があります。その豊かな色彩を前にすると、自分の絵がまるで急に暗く色を変えてしまったように見えたと言っています。有島の色彩は晩年、より明るさを増すようになります。

本作には久しぶりのパリで受けた刺激が反映されているのでしょうか、円熟の域に達してなお新たな表現を求めるかのように、生き生きとした輝きに満ちています。この1964年は、有島を慕う画家たちによる研究会「黒門会」が再興し、自身も文化功労者の栄誉を受けるなど、画業の節目の年となりました。

【市立美術館 224・3400】

小企画展
「黒門会の作家たち」
開催期間
2月8日(日)まで



カメラトピックス

camera topics

市政の動きを写真で紹介

11月20日(木)



平川動物公園リニューアルオープン!

平川動物公園リニューアル第5弾として、「世界のツルゾーン」やナマケモノなど南米の生きものを観察できる「南米館」のほか、バリアフリー対応のトイレや授乳室などの休憩施設が完成しました。

11月26日(水)



サクラフェアリー進水式

第五櫻島丸の代替船として建造が進められていた新船(愛称:サクラフェアリー)の進水式が長崎県佐世保市で行われました。サクラフェアリーはサクラエンジェルに続く2隻目の電気推進船で、今春からの就航を予定しています。

11月30日(日)



桜島火山爆発総合防災訓練 島内避難訓練

桜島の昭和火口の活動が活発化していることから、昭和火口に近い有村地区(有村町)、古里東地区(古里町)、塩屋ヶ元地区(黒神町)の3地区で噴石や溶岩流を想定した訓練を行い、地域住民の皆さんが参加しました。

12月1日(月)



冬のイルミネーション点灯!

毎年恒例の冬のイルミネーションが始まりました。

1月31日(土)までみなと大通り公園、鹿児島中央駅前広場、マイアミ通り、海岸通りに設置され、本市の冬の夜を彩ります。

12月7日(日)



環境子どもサミット

子どもたちが、環境問題に関心を持ち、具体的な取り組みについて話し合い、情報発信することを目的とした環境子どもサミット。今年度も5団体の子どもたちが環境学習や環境保全活動を通して学んだ成果を発表しました。

12月8日(月)



かごしま市チャレンジ大賞表彰式

社会貢献、産業就労、文化・スポーツの分野で活躍している障害者や障害者を積極的に支援している団体を、障害者週間に合わせて表彰するかごしま市チャレンジ大賞。今回は個人3人と1団体を表彰しました。